

地区別体育授業改善研修会(小学校 R6.11.6)

本研修会の目的は、「『保健』の授業改善に係る研修を通して、教員の資質向上を図ること」です。当日は、提案授業並びに研究協議や講義・演習を通して、学習指導要領に基づく保健領域の授業づくりについて実践的に学ぶことができました。

1 単元とプロジェクトメンバー

単元名 G 保健 (3) 病気の予防
授業者 一関市立中里小学校 教諭 吉田 善寿
支援員 一関市立山目小学校 教諭 今野 優太
平泉町立長島小学校 教諭 田村 寿人

2 授業改善の視点・提案授業の様子

くねらい>

生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質能力の育成

視点1:自分事として捉えるための、単元を貫くテーマ設定

視点2:ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

視点1

【70歳～80歳】
病気がかりやすくなる

自分の好きな事をして
いろいろな事に挑戦して
長生きしたい!

マスクをして感染症に
かからなくしたい。

単元の第1時で将来設計の年表「100歳年表」を作成し、自分の「よりよい人生」について考えました。本単元で学習する病気、喫煙や飲酒の害、薬物乱用など、「よりよい人生を送る上で障害となりそうなもの」を自分事として捉えやすくなりました。

また、この「100歳年表」に今の自分の生活を関連させて、学習したことをどのように生かすかを、単元を通して積み重ねることができました。

視点2



「生活習慣に関するアンケート」の結果を視覚的に分かりやすく表し、自分の生活について振り返りました。



ウェブカードや資料、評価問題等、工夫されたロイロノートの学習カードを活用しました。



課題解決の時間は、学習形態、学習方法、まとめ方を児童が選択できるようにしました。教室内で友達と協力して調べる姿、共有ノート機能を使って友達の意見を参考に学習を進める姿、個人で自分の課題について詳しく調べる姿が見られました。

授業者は支援が必要な児童に個別に指導していました。

3 助言から

岩手県教育委員会 保健体育課 生駒大輔 主任指導主事

★ 保健領域では健康課題を自分事として捉えることが重要である。健康行動理論「ヘルスピリーブモデル」では「脅威の認識」と「可能性の認識」が挙げられている。児童が「将来病気になるかもしれない」という可能性を認識するうえで100歳年表は有効であった。実態に応じ、将来のことを身近に感じることができない児童もいるため、架空の人物の生活行動を提示したり、「児童の1日の生活」の中で改善点を考えさせたりすることも有効である。

★ 本時の課題解決の時間は、インターネットや本など様々な媒体で資料を準備し、児童が調べ学習に没頭できた時間であった。また、児童がロイロノートの共有ノート機能を活用し、協働的に知識を獲得していた。学習カードについても、ロイロノートを用いて、主体的に学習を進められる工夫があった。本時に見取りたい内容を教師が理解し、学習カードを作成していく必要がある。

★ 単位時間のつながりだけでなく単元として、いつ何を身に付けさせ、何を見取っていくかをデザインすることが大切である。

【研修者からの感想】

- 単元を通して「何を学ぶか」ということをきちんと教師が見通すことで、子どもが主体的になり、課題解決の時間を子どもに任せられると感じた。
- 「100歳年表」や「身近なデータ」を提示して保健の内容を自分事として捉えさせると学習効果が上がると感じた。
- 保健という教科が、学期末等短い時間で行うものではなく、児童が自分事として学習内容を捉えられるように手立てを考え、ICTを上手く活用して取り組んでいきたいと思った。
- 保健の学習を計画するとき、「必要な知識を落とさず計画に取り入れること」、「評価規準のバランスを落とさず計画に取り入れること」が重要だと分かった。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた保健教育の授業の動画や指導案が掲載されています。ぜひご活用ください。

● 日本学校保健会
「児童生徒の健康管理・健康づくり推進動画」

<https://www.gakkohoken.jp/health-management-and-health-promotion/>

